SHIMANE AKAHIGE BANK

島根の地域医療

2007／10／12　第22号

発行：島根県健康福祉部
医療対策課 医師確保対策室

今回の紙面

◆地域医療最前線NO.２７《春日正己》
◆看護師さんのページNO.７《中桐昭美》
◆研修医のページNO.１２《鴫原大樹》
◆医学生隠岐の島体験記《今井雅浩》
◆オーストラリア医学研修報告《石橋和樹》
◆高校生医療現場体験セミナー
◆その他

地域医療最前線 NO.27

「島根を知って下さい、好きになって下さい＋奥出雲町も」

町立奥出雲病院　院長　春日正己

地域医療最前線ということで病院紹介をかねてこの稿を書かせて頂きます。島根にお医者さんが足りません、看護師さんが足りません。地域医療の現場では毎日が人手不足です。各職域で人探しが毎日必死の想いでなされています。

島根についてどのくらい知っておられますか？そういう小生も島根の育ちですが、島根に帰ってくるまでは山陰本線の急行、特急の停車駅程度しか知りませんでした。島根に何らかのご縁のある方々にまず島根の歴史と現在を、各地域と地域に住む人々を知って頂き、島根を好きになって頂く、各地域を好きになって頂くことが、島根の地域医療を担う人材確保の足がかりと考えます。

石見銀山が世界遺産となりましたが、奥出雲地方には日本に一カ所、世界に一カ所の産業が現在も息づいております。古代からこの雲伯の国境（現在の島根県と鳥取県の県境）は日本一の良質の砂鉄の産地であり、八岐大蛇（やまたのおろち）伝説で知られる（現在も神楽で舞われることはご存じの方も多いと思います）素戔嗚尊（すさのおのみこと）・その妻奇稲田姫（くしなだひめ）の祭られた稲田姫神社と天叢雲剣産剣の地が船通山（鳥上山）にあります。その良質な砂鉄を用いて現在も日立金属安来工場鳥上木炭銑角炉とそれに隣接して日刀保たたらが存在し、安来工場で作られた鋼はYSS（ヤスキハガネ）と呼ばれて珍重され世界に提供されております。また、玉鋼は日本刀の原料として日本全国の刀匠に供給されています。古代から続く伝統を感じていただければと思います。

私たちの病院は島根県の東南端、奥出雲町（旧仁多町と旧横田町が合併して誕生しました、何れの町名も出雲国風土記に記載のある古い時代からのものです）に位置し、松江市、出雲市へ43キロメートルの距離にあります。平成11年5月に新築移転し、バリアフリーのきれいな病院で、県内で二番目に電子カルテを導入しております。地域中核病院として救急体制の充実を図り、一次・二次救急として17年度5975件、18年度4577件の救急患者さんの受け入れをしてきました。救急車の搬入件数は17年度391件、18年度455件でした。手術総数は17年度341件、18年度319件でした。

以上当地の歴史、現在の状況、病院の状況について簡単に触れてみました。ぜひ島根を好きになっていただけますように切に祈りながらこの稿を終えたいと思います。

看護師さんのページ NO.7

「済生会江津総合病院に勤務して」

看護師　中桐　昭美

私は看護師になり、済生会江津総合病院で勤務して今年で3年目になります。初めは都会の病院で働きたいと思っていましたが、地元に残りたいという気持ちもあり、この土地、そ

して、救急医療も行っているこの病院を選びました。

済生会江津総合病院は、一般病床２２０床、回復期リハ病床４０床、療養病床４０床を備えた病院です。島根県西部には総合病院が少なく、済生会江津総合病院は地域の皆様に必要とされている病院のひとつです。医療も充実していますが、季節ごとに催し物を開催しており、地域の方々との交流が深く、医療の場以外でも地域の方々と接する機会が多く魅力的です。

私は現在、ICUを含む外科、循環器科病棟に勤務しています。救急部門での看護ができ、いろいろなことを勉強させていただきながら、また、病院で出会う方々とのふれあいを大切にして勤務しています。

入院患者様の多くは地域の方々であり、地元の病院で医療を受けられることを大変喜んでおられます。このような話を何度か聞き、地域の方々に親しまれることが、職員の励みになっていると感じています。

また、ICUでは入院を余儀なくされる方も多く、突然のことで戸惑っておられる患者様、ご家族にどのような言葉がけをしたらよいのか悩むこともあります。一度、自分自身が入院したことがあり、その時のことを思い出しながら、自分が患者様の立場になって考えるようにしています。親しみやすい江津弁を使ってのコミュニケーションも馴染みやすく、お互いにとって安心感につながっていると思います。

これまで勤務して感じることは、看護師の存在は心の支えとしてとても大切だということです。安全で安心のできる確実な医療を受けることが何よりも大切です。患者様、ご家族にとって一番身近な存在である看護師は、入院生活で最も重要な役割を担っています。この責任感に潰されてしまいそうな時もありますが、これまでいろいろな方々と出会い、学んできたことが私の支えになっています。

地元である島根県で働けることに誇りを持ち、これからの出会いを大切にして、一歩一歩確実に成長していきたいと思っています。

研修医のページ

NO.１２

浜田医療センター

２年目研修医　嶋原大樹

浜田医療センターで２年目の研修をさせていただいております。（１年目は島根大学医学部付属病院で研修を受けさせていただきました。）浜田医療センターでは、本年の８月から研修を開始致しました。４月から７月までは、浜田市国保診療所の一つである波佐診療所、浜田保健所、西川病院をそれぞれローテートし、現在に至っています。浜田での研修は、非常に有意義で実に充実した日々を送らせていただいております。２年目の研修は地域医療や保健所のコースが設定されているために、１年目よりも患者さんの生活により密着した研修となっています。単なる疾患のみの情報ではなく、患者さんの家族背景、診療所までの交通手段等も考慮して診察を行っている中山間地域の医療は特に印象的でした。また、これまでにあまり研修で意識することが無かった予防医学に対しても、ほんのわずかな期間ながら関わることができたのは大変意義の大きいことであると感じています。

研修も残すところ約半年になりました。この１年半、一番感じてきたのは、

正直申し上げて、「怖さ」です。当たり前ですが、一人として同じ患者さんは存在しません。皆さん違っています。そして病状も、いつ、どのような経過を辿るか予測がつかないこともしばしばです。とにかく、いくら勉強しようとも（当然私がまだまだ勉強不足なのは自明ですが）、患者さんの症状・治癒力のほうがはるかに上手です。その現実に、実は毎日恐れています。当然、指導医の諸先生方も、その感覚と全く無縁ではないと思います。にもかかわらず、御多忙の中、研修医のために時間を割いていただけるのを心から感謝しております。果たして、自分が指導する立場になったときに、同様のことができるかどうか、あまり自信がありません。

中山間地の医療では、上記の事柄を特に強く感じました。誰一人同じ人はおらず、誰もがその人固有の物語を有して、診察室にやってきます。それは、決して「のどかな」ものではありません。再診といっても、毎回が初対面のような緊張感があります。そして、いつもと同じことに安堵して、何事も起こらないことがいかに素晴しく価値のあることか考えさせられる連続です。大げさに言えば、人間とは何か、病むとはどういうことか、老いるとはどういうことか、向こうから問いかけられる毎日です。一医療人としてこの気持ちを一生大切にしてゆきたいと考えて、また研修を続けていこうと思っています。

書を置いて地域へ飛び出そう！

～島根大学医学部４年　今井雅浩～

去る６月１７日に、隠岐の島ウルトラマラソンに参加した。せっかく隠岐までいくのだから、ということで、隠岐病院の見学もさせてもらった。今回は、その報告をしたい。

当たり前だが、ウルトラマラソン５０キロメートルはきつかった。初めて渡った隠岐は、想像していたより遙かに起伏が激しく、自然に富んだ島で、５０キロという道のりは、はてしなく長く、きついコースであった。そんな中、私を支えてくれたのは、炎天下、ランナーを応援してくださる沿道の方々、コース上や給水所でランナーを助けてくださるボランティアの方々の声援であった。一人一人のランナーが通り抜ける一瞬のために、一日中、声援を送って下さる島の皆さんをみて、隠岐の温かさを実感できたことが、完走したこと以上に心に残っている。

病院で働く方々も、医療に対して真摯で、地域に対して熱い方ばかりであった。休日にもかかわらず、「これが隠岐流」といって、病院案内だけでなく５０キロのコースに下見に連れて行ってくださる先生、３時間もの長きにわたり、隠岐、島根そして日本の産科について話してくださる先生、押しかけの私に対して、手術見学だけでなく、宿まで貸してくださり、深夜まで医療について話して下さる先生、お会いする全ての先生方が、とても素晴らしい方ばかりであった。

今、隠岐病院には、多くの素晴らしい先生がいる。隠岐病院に行ったことのない方は、「隠岐で働く医師」と言われて、どのような医師像を思い浮かべるのだろう？地域医療の最前線で奮闘している、熱く、そして温かい先生方をイメージできるのだろうか？地域医療は、大学で教科書を開いているだけではわからない。自らが経験することでしか、地域医療の具体的なイメージを形成することは出来ないのである。

富士山を知らない人はいない。しかし、富士山を登ったことにない人にとって、自らの中に持つ富士山のイメージは、極めて抽象的で、一般的なものに終止してしまう。これに対し、実際に富士山に登った人は、個別かつ具体的な富士山を描くことができる。本当の富士山の魅力は、そういった個別、具体的な経験の中で育まれるのである。

それと同じように、単に医学部に籍を置き、単に大学の中で学ぶだけの学生が描く地域像は、抽象的、一般的なものに終止してしまう。地域に飛び出し、地域の医療機関を訪れ、地域の人々と触れ合うことで、自分だけが持つ、鮮やかな地域像が描けるのである。地方の大学でなくても学べる学問にだけに力をいれ、テスト結果に一喜一憂していては、医療人として成熟していくことは困難であろう。せっかく地方大学（特に島根大学）で学ぶのだから、実際に、自分の足で地域を訪れ、自分だけの経験を育てよう。

今回の隠岐実習において、お世話になった先生が、次のような素晴らしい話をしてくれた。「病院見学も大事だけど、医療をするならその地域をじっくり知る必要がある。病院に住むのではなく、地域に住むのだから」。

今回、私が隠岐に滞在したのは僅か四日である。僅か四日ではあるが、隠岐の島ウルトラマラソンで６時間、島民の温かさに触れることができ、隠岐病院実習で、隠岐の島という地域で奮闘される熱い先生方とお会いすることができた。また、隠岐病院で働く皆様にも大変お世話になり、まさに、「隠岐流」という、地域の温かさに触れることができた。訪問する前には描くことができなかった隠岐を、自分なりに鮮やかに描けるようになった。

隠岐だけでなく、島根県には、たくさんの地域があり、その土地固有の文化が息づいている。地域に出かけよう。地域に触れよう。そして、地域を感じよう。書を置いて、地域へ飛びだそう。

隠岐病院産婦人科 加藤先生も「みんなで考えよう島のお産」とプリントしたオリジナルＴシャツで見事 100 キロ完走！

高校生医療現場体験セミナー

医療現場での体験を通し、医師という職業や医療への理解を深めてもらい、医師を目指す高校生を増やすことを目的とし、８月６日～９日に高校生医療現場体験セミナーを開催しました。

このセミナーは昨年度から実施し、好評であったため今回は会場数を増やし４病院（松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター、隠岐病院）のご協力をいただき、９校延べ６１名の参加を得て実施しました。

参加した生徒さんたちは、普段は見たり触れたりすることのできない医療現場での体験、医師の体験談、若手医師との懇談等に目を輝かせていました。

開催後に実施したアンケートでは「医師は大変である半面、それだけやりがいのある職業、医師という仕事の魅力を感じることができた。」、「医療についてますます関心が高まり、医学部進学の意欲が一層強くなった。」、「貴重な体験をさせてもらった。機会があればまた参加したい。」などなど、一様に大変前向きな感想をいただきました。

【医療対策課　仕立】

医療現場体験セミナーに参加して

松江南高校３年　横川　敬

今回、この医療体験セミナーに参加させていただきありがとうございました。今まで、漠然と医療に携ってみたいと思っていたのですが、先生方の講演を聞かせていただいたり、実際に医療現場に入り機材に触らせてもらい、先生方しか入ることのできないところにも入らせてもらうなど、非常によい経験をさせていただきました。

また、同じ目標を持った人たちが集まっており私自身としても刺激になり、自分を見つめ直すよいきっかけになりました。人の命を預かるとても責任の重い仕事であるため、その道に進むのも非常に大変なことですが、どの先生方も「患者さんの笑顔を見ることが何よりの喜び」と言っておられたのがすごく印象に残りました。改めて、すばらしい仕事だなとの思いも一層強くなり、これからの勉学に励んでいきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、セミナーを開いていただいた松江赤十字病院の皆様、ありがとうございました。

オーストラリア医学研修報告

～隠岐島前病院　石橋　和樹～

今回 WWAMI プログラム研修としてメルボルン大学で研修させて頂きましたので、ご報告申し上げます。

オーストラリアは広大な国土であり、医療過疎地域も多く抱えており、日本以上に医師確保が大きな問題になっております。その対策として医学生の数を増やし（２０１２年までに医学生の数を現在の２・５倍に）、地域で働く医師を増すための教育内容の検討がされております。そのひとつの取り組みとして、増加する医学生の教育機関の確保と地域医療への意識を高める目的で rural school が創られ、今回見学させて頂きました。（ちなみに rural とは「田舎の…」とか「地域の…」という意味の英単語です。）

メルボルン大学は医学生研修施設としてメルボルン市内に３つの病院（７００～１０００床規模の大病院）とともに３つの rural school を抱えております。rural school はメルボルンから離れた地方都市にある地域医学生教育機関で、今回研修させて頂いた rural school は人口１０万人の都市にあり、付属病院として２００床程度の病院を抱えております。

メルボルン大学医学生はその６つの研修施設の中からマッチングを行い研修施設を決める事になります。すべての学生は一度は rural school で研修を行うこととなり、また約２５％の学生は１年以上をそこで過ごすとの事で

した。またその rural school から更に過疎地域の診療所に医学生派遣等を行い研修もされております。rural school の取り組みは２０００年に始まった新たな取り組みではありますが、学生の中でも人気が高いとの事です。今回の研修では rural school での教育の実際を見させて頂き、小・中規模の研修施設ではありますが教育レベルの高さを感じました。教育専門 Dr が多数配置されており、優れた教育をした教官に表彰を行うなど、教育への意識の高さを感じました。また rural school から診療所に医学生が派遣される時には、受け入れ医師に対し指導法の研修をしたり、研修受け入れに対して報酬を支払うなど、受け入れ側医師への配慮が行き届いていると感じました。

また、今回遠隔映像システムを利用し診療所に長期派遣されている学生に対し講義を行う様子を見させて頂きましたが、長期間、地域に滞在する事で教育内容に不平等が起こらないように配慮されており、ストレスの少ない地域医療研修を可能にしているように感じました。

今回の研修では rural school という日本にはない仕組みを見させて頂き、全ての学生にそこでの研修を義務付けるなど、学生の間から大学病院・大病院以外での診療をみせて地域医療への意識付けを行っており、素晴らしい仕組みだと思いました。また rural school はオーストラリア内の各医大にありますが、それぞれ大学の垣根を越えて連携しながら教育内容の検討などを行っているとの事でした。

今回の研修を通し自分自身がまだ研鑽を積んでいかないといけない時期ではありますが、それとともに教育に対しても意識を高めていかなければと感じました。今後、地域医療を盛り上げていく為に、今回の研修を生かしていきたいと思います。

医学生夏季地域医療実習

医学生を対象に、離島や中山間地の医療を肌で実感し、地域医療について考えてもらうため、八月の夏休みを利用して夏季地域医療実習を実施しました。隠岐島前、島後、雲南、県央、浜田、益田地区の病院や診療所などにおいて、一年生のコースに八名、二年生～六年生のコースに二十五名、合計で三十三名の医学生の参加がありました。

次回以降の実習に参考となる感想や御指摘（レポートの一部抜粋）をいただきましたので、紹介します。

【医療対策課　門城】

▼益田地区の実習に参加した島根大学医学部一年生の門脇円さん

益田地域の医療を一生懸命支えようとする医療スタッフの姿とそれを頼りにする患者さんの姿がとても印象的で、私も地域の医療に貢献できるようになりたいと思った。次回はもう少し時間をかけて地域医療について深く学んでみたいと思った。

▼雲南地区の実習に参加した自治医科大学三年生の川上優子さん

大学の講義で習った知識の復習や知らなかった事を知ることができてすごく楽しかった。同時に、日々習っている知識の意味を知ることで、勉学への意欲も高まったように思う。

▼県央地区の実習に参加した島根大学医学部三年生の松本賢治さん

実習自体はとにかく参加すること、体験することに大きな意義があるが、実習をより良いものにするには実習前に学生に今回の実習の目的と目標を設定させる方が学習効果が高いと思う。

（写真は、益田地区、隠岐地区での実習風景）

第一回　地域医療支援会議報告

県内の中山間地、離島等のへき地医療対策及び地域の医療機能の確保を、より総合的・体系的に推進するため、本年度第一回目の地域医療支援会議を八月三十日に開催しました。

この会議は、本年４月から医療法において法定化されたことに伴い、住民代表として新たに一名の委員を迎え、委員二十五名で組織されています。

第一回の議題は、医師確保対策の取組状況について、地域医療拠点病院の指定及び活動について、島根県地域医療支援計画について、緊急臨時的医師派遣についての四項目でした。

今回の会議で、地域医療拠点病院として新たに平成記念病院を指定することが決定されました。また、緊急臨時的医師派遣システムについては、津和野共存病院及び安来市立病院から派遣の要請があり、いずれも県として厚生労働省に要請することが決定されました。

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

（平成19年9月1日現在）

＜求人＞２６件

邑智郡（病院）／整形外科、精神科
浜田市（病院）／内科
出雲市（診療所）／胃腸科
邑智郡（病院）／内科、整形外科、在宅医療
鹿足郡（病院）／内科、外科
仁多郡（診療所）／内科
浜田市（診療所）／内科
鹿足郡（病院）／放射線科、内科、麻酔科
益田市（病院）／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
松江市（病院）／内科、麻酔科
浜田市（病院）／内科、放射線科
江津市（病院）／精神科
仁多郡（病院）／眼科、内科
松江市（その他）／不問
出雲市（病院）／内科
浜田市（その他）／内科
鹿足郡（病院）／整形外科、内科、リハビリテーション
松江市（病院）／内科、整形外科
邑智郡（病院）／内科、整形外科、産婦人科、放射線科
雲南市（病院）／麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科
大田市（病院）／精神科、内科
大田市（診療所）／内科
雲南市（病院）／神経内科、腎臓（循環器）、外科
益田市（病院）精神科
安来市（病院）／内科
松江市（その他）／不問

＜求職＞０件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
［電話番号］0852-21-8813
（専用電話）
［ホームページアドレス］
http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm
【担当：塩田・嘉本】

島根の地域医療視察ツアー参加者募集

島根県では、将来県内で勤務を考えておられる医師やそのご家族を対象に地域医療の視察ツアーを開催しています。自然を余すことなく満喫できる島根の地で、実際にその目で町の雰囲気や病院、診療所を見てください。

日程や視察コースは、ご希望に応じますのでお気軽にご連絡ください。

○対　象

◆将来島根県での勤務を考えておられる県外の医師及びそのご家族。

○ツアーの費用

◆県の規程に基づき、原則２泊３日分（２名分）の旅費を県が負担します。

○申込方法など

◆参加希望の方は、お気軽に医療対策課医師確保対策室までご連絡ください。

※E メールでの申し込みは島根県ホームページに「参加申請書」を載せていますので、ご利用ください。

http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/

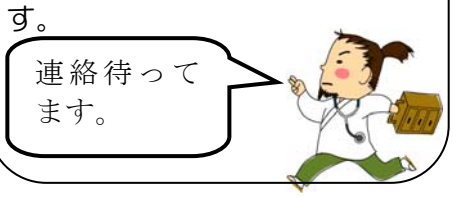
島根県は医師を求めています

島根県では、県内で勤務していただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、電話やメールでは相談しにくい、細やかな相談にも応じます。

お気軽に医師確保対策室までご連絡ください。

また、友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、同意を得た上でご紹介ください。

ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内への就業を支援します。



個人情報は、島根県個人情報保護条例に基づき適正に管理するとともに、目的以外の利用はいたしません。

『赤ひげバンク』の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。

今後のイベントスケジュール

▼臨床研修指導医講習会

11 月 2 日(金)～4 日(日) 島大医学部看護学科棟

▼研修医意見交換会

12 月 8 日(土) 14:00～17:00　パルメイト出雲

医療講演会「ER 研修における心得」(14:00～15:30)

講師：福井大学医学部附属病院総合診療部教授　寺澤秀一先生

医療講演会(14:00-15:30)には、医学生ほかどなたでも参加できます。

「がん対策募金」についてのお知らせ

島根県ではがん医療の向上を願う患者や家族の声に応えるために、「がん予防」「医療水準の向上」「患者支援」といった対策に取り組んでいます。こうした中、財団法人島根難病研究所では、診断や治療に必要な機器整備のための募金活動を始めました。身近な人を守るため、御理解と御協力をお願いします。

島根県医療対策課
医師確保対策室の連絡先
〒690-8501 松江市殿町1番地
E-mail：iryou@pref.shimane.lg.jp
TEL：0852-22-6684
FAX：0852-22-6040
ホームページ[島根の医療]
http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/

SHIMANE AKAHIGE BANK

医師募集キャラクター
赤ひげ先生